



第11回久喜市生涯学習研修大会

「まなびすとフォーラム」報告書

開催日：令和5年6月10日（土）

会場：久喜市鷺宮総合支所生涯学習施設

大会テーマ：「あなたにとって久喜のまちづくりとは」



生涯学習研修大会概要

1. 開会式・来賓あいさつ
2. 主催者あいさつ
3. フォーラム内容
4. アンケート結果のまとめ
5. 講評とあいさつ
6. 添付資料：グループ討議結果

共催：久喜市生涯学習推進会議・久喜市生涯学習推進部

久喜市教育委員会

製作・発行：久喜市生涯学習推進部

1. 開会式・来賓あいさつ



久喜市長：
梅田修一様



久喜市議会副議長
丹野郁夫様



埼玉県議会議員
石川忠義様



久喜市教育委員会教育長
柿沼光夫様

2. 主催者あいさつ



久喜市生涯学習推進会議議長 兼 推進部委員長

宮内 智

要約：討議への期待

第11回「まなびすとフォーラム」開会の挨拶

この「まなびすとフォーラム」は、生涯学習推進部の年間行事の一つとして、市広報にて一般公募を行い参加者募集して実施してきました。久喜市合併以来10回を数えております。令和元年には県立鷲宮高校の一部をお借りして約200名の方にお集まりいただき、17グループにて開催をいたしました。

しかし、皆様ご承知の新型コロナウイルスの影響で3年間休止を余儀なくされたところでした。この鷲宮総合支所内に令和4年3月に生涯学習施設「まなびすポット」が開設されました。本年2月にはこの施設を利用して「まなびすと久喜」を開催し、多くの来場者を迎えることが出来ました。この会場においでの皆様の中にも、イベント実施や、発表会にご参加いただいた方もいらっしゃると思います。大変ありがとうございました。

4年振りになるこのフォーラムもこの施設で開催とのことで推進部を中心に準備を開始しました。ただ、この会場はフォーラム開催が初めてであり、準備に遅れがでてしまいました。数年間お休みした関係で、推進部をはじめとして、市民大学の生徒さんも経験がない状態の方が多数おられる為、当初は8グループ64名の参加で、規模を縮小して実施を予定しました。この様な状況下で参加者を限定して募集を行いましたが、約90名以上の多くの方にお集まりいただけることになりました。グループ人数が増加しましたが皆様のご理解をいただき、本日の大会に臨みたいと思います。

今回のテーマにつきましては、後ほど詳しく説明させていただきますが、久喜市では第2次久喜市総合振興計画にて「人が笑顔 街が元気 自然が豊か 久しく喜び合う住みやすいまち 久喜」の実現を目指し、将来像のスローガンとしています。「住んでみたい」「住んで良かった」「これからも住み続けたい」と願うまちづくりを目指しています。こうした市の計画にそって、今回のテーマは「あなたにとって久喜のまちづくりとは」を討議していただきます。

各地域の皆さま方が、活発なご意見をグループ内で協議・討論をしていただき、グループとしてまとめを宜しくお願いします。グループ討議終了後に全グループのご意見を発表していただきます。

そしてこのフォーラムで得た経験をこの場だけにしないで、久喜市の「まちづくり」の貴重な意見として市の行政の一部に反映され、確実に実行の場に使われるような形になれば、今回のフォーラムの開催意義が少しでも達成されるのではないかと思います。

本日は、ご参加の皆様の活発な討議を期待しております。どうぞよろしくお願いを申し上げ、開会のあいさつとさせていただきます。

3. フォーラム内容

1) 討議風景



2) 討議結果発表風景



「第11回まなびすとフォーラム」各グループ討議結果の模造紙記載のキーワード集

G名	No.	1	2	3	4	5
G1	1	地域: 祭りなどの行事 地域の行事への参加	安心安全: 子どもたちが遊べる公園がある 子育てしやすい町	地域課題: 少子化・高齢化⇒自治会活動の 停滞 地域のごみ収集(ごみの投げ捨て、 収集ルールが難しい)		
	2	ボランティア: 栗橋宿のボランティア シルバー人材センター	ボランティア課題: ボランティアをしたいが見当たらない			
	3	学校: 学校、PTA、家庭の在り方 地域の通学見守り 地域でのラジオ体操 地域との交流	施設の課題: 交通安全の街灯の設置 用水路の安全整備			
G2	1	学校を中心のコミュニティ: 学校・強み: 久喜市のゆうゆうプラザ 防災訓練・コミュニティの連携 町おこし地域密着の祭	学校・強み: 久喜市のゆうゆうプラザ 防災訓練・コミュニティの連携 町おこし地域密着の祭	学校・弱み: 道路が狭く整備が必要 スクールゾーンが少ない	課題: 交通安全の街灯の設置 スクールゾーンの安全整備	
	2	住み続ける街へ①	合併効果が出ていない: (市としての一体感が見当たらない)	各地区間の交流を増やしては 小さく積まらずに横の連携をとると 良い	対策: 駅前にお店とコミュニティセンター があれば良い	課題:  市内巡回バス路線の増設と全市 内の運行
	3	住み続ける街へ②	対策: 管理を行う	対策: 空き家の利用(活用)を考える	課題: 空き家が増えている	
	4	住み続ける街へ③ 久喜の強み: のどかで住みやすい 災害が少ない 子育てがしやすい	久喜の弱み: 久喜市のPRの出来る特色を創る 久喜駅近傍に施設が少ない 子ども専門医が少ない 産科医が無い	久喜の対策: 保育所を設置した会社の誘致(駅 近傍に) 工業団地の公園の利用 駕宮神社を観光地に売り出す 久喜の特産品を売り出す	課題: 各種メディアを使って久喜市のPR の情報発信	
G3	03	子どもを中心に考えるまち: 学校⇒ゆうゆうプラザ講座の活用 ゆうゆうプラザ実施委員の後継者 がない、世代交代が出来ない 学校行事に地域高齢者の参画を 希望 地域と家庭の連携	PTA(市PTA連合会): PTAの在り方への疑問 PTAの役員のなり手がいない PTAの役員廃止 PTAのボランティア化 LINEでの連絡が多すぎ把握し れない	コミ協: 区長余のなり手がない 高齢化に伴い後継者がいない 市民まつり運営の後継者がい ない 学校応援団の高齢化 児童数の減少	地域:地域の協力 久喜駅前の活性化と整備 独居者への支援 久喜の特産品を広める 通学路、学校環境整備	
G4	04	市民参加: 新しい住民の意見を尊重する ボランティアに参加したくなる町 づくり 町の行事の情報不足(参加しづ らい)	子育て: 子育てが楽しくなる町づくり 子どもたちの遊べる・興味の持 てる町づくり	高齢者の活力: 高齢者と若い人の共働・共存の 場づくり 高齢者の仕事への活力維持 高齢者大学・市民大学の活用	地域交流の活性化: 住民同士のコミュニケーションが 少ない 地元での働く場を増やす 地区間の交流の場づくり 住民同士のコミュニケーション不 足(先ず接吻)	課題:施設の格差 合併後の地区間の道路など公共 施設の整備に格差が生じている 課題:交通  地区間の移動の手段である4地 区へのバスの運行がない

3) グループでの討議結果の取組 (キーワード集)

G5	05	<p>現在の活動： いきいきサロンの参加者減少</p> <p>放課後子ども教室の充実</p> <p>自治会のボランティア活動</p>	<p>地域： 助け合える地域 子育てに協力してくれる地域 子どもたちの健やかな成長を見守れる地域 子どもたちとともに活動できる地域</p> <p>高齢者が活動できる地域 独居老人への支援</p> <p>地域伝承文化の継承</p>	<p>要望・学校： PTAの行うことを明確にして充実した活動を経験してほしい 登校日の給食の提供と無償化 給食のアレルギー対策</p>	<p>要望・施設関係： 公園・子どもの遊び場の増設 市民(温水)プールの改修 プールが欲しい 災害時に備えて連携できるコミュニケーションづくり 避難所の増設</p>	<p>要望のまとめ： 出た要望にきちんと対応してほしい</p> <p>課題：施設 街路灯の設置 道路の安全対策(車の走行が多い) 公園が少ない</p> <p>課題：学校 一時保育を使い易く 働く子育て世代が働きやすい環境づくり</p>
G6	06	<p>地域： 地域包括センターを桜田地区に街灯の増設(道路が暗い)</p> <p>学校： 登校時のサポーターの組織化とパトロールの実施</p>	<p>お互いに挨拶をする： 学校の休みを利用した各種活動 子どもを中心にしたコミュニケーション</p> <p>高齢者： 高齢者が増えコミュニケーションの場づくりが必要 世代を超えたコミュニケーション 高齢者世帯への支援</p>	<p>ボランティア： 各コミ協内に部会組織づくり(防災・福祉・子ども) ゴミゼロ運動への参加者が少ない 小さいことから始める 地域で子どもたちと楽しむものづくり</p>	<p>ネットワーク： IT教育の場の提供 誰もが使えるネット社会 IT化の促進 農業従事者のIOT活用拡大</p>	<p>課題：交通  市内交通網の充実、バスの運行が見える化できないか</p> <p>課題：高齢者 高齢者が増えコミュニケーションの場づくりが必要 コミュニケーションのできる場所がない</p>
G7	07	<p>久喜市の魅力： ⇒災害が少ない 桜・ラベンダーなど花のイベント 鷲宮駅やき広場に水仙の花壇 高齢者の安全パトロール 地域の住民のコミュニケーション</p>	<p>災害について： 命を守る教育がもっと必要 年1、2回の防災訓練を 電柱の青いテープの意味を周知 水害マップ、避難経路の見直しを</p>	<p>高齢者に優しいまち： 高齢者向けのデマンドバスの充実と公共交通バスの運行</p> <p>点字ブロック、バリアフリー化で高齢者を対象にした町づくり</p>	<p>取り組み対策： SNSを含めてITの活用</p> <p>人づくりへの投資 社会貢献を広げる コミュニケーションを通じて町に活気を 久喜マラソンを盛り上げるなどイベントの充実</p>	<p>久喜市の課題： 高大、市民大学入学者が少ない 自転車道の整備 グランドゴルフ場の整備 自販機が少ない 買い物に不便 本屋があるといい 子どもの遊ぶところがない 公園にある木の名前の表示 栗橋地区は医療機関が少ない</p>
G8	08	<p>市の魅力づくり： 市民まつり、まなびすと市への求心力 魅力の情報発信</p> <p>関係団体と協力： 施設訪問(ボランティア) 市民大学、高齢者大学との共同で参加する 工業団地の交流を活用 審議会、商工会、法人会、青年会議所との交流 社会福祉協議会など各種団体との話し合い ひとり親支援</p>	<p>コミュニティづくり： 子どもを核とした地域づくり イベントを通じた参加者のコミュニティづくり 高齢者と若者の交流 高齢者の居場所づくり 学校地域とともに子ども祭り 挨拶運動(地域・学校・大人・子ども) 住民同士の交流 身近な地区のコミュニティサロンなど 清掃活動・ゴミ分別 コミュニティ、自治会NPOの応援など</p>	<p>安心安全のまちづくり： 災害に強い地域である 利根川の地震水害災害時の避難方法 地域で防災訓練を行う 避難所運営を学校・行政とともに 子どもたちの通学の安全(スクールガード) 道路を利用した交通安全教育 歩行者と自転車の安全な道路の整備</p>	<p>学校と連携共働： 学校運営協議会の満足度 学校と地域の連携を密に 外国人支援(日本語教室) 生涯学習教育の充実 くま樹塾(久喜市教育委員会指導課)</p> <p>ゆうゆうプラザは子どもの魅力： ゆうゆう活動若手の登用 小学生の頃からボランティア精神を育てる ゆうゆうへの協力 昔の遊び</p>	<p>課題： 若者が少ない 子どもが少ない 後継者不足 育成 高齢化に対する後継者育成</p> <p>公共交通の充実(4地区間) </p>

4) 今回のフォーラムのキーワードについて

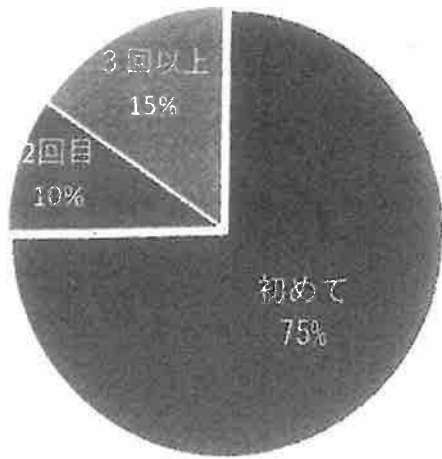
各グループの発表内容と発表資料を参考にキーワードを抽出一覧表にまとめました。

次に今回の気づき事項を記します。

- ① 今回の討議においては、「せっかく貴重な意見が出て、受け取る側が明瞭でなく、空論のフォーラムにしてほしくない」との指摘と要望があり、貴重な意見と受け止め今後の対応で放置できない問題である。討議結果を活用し行政側への方策のルール化が必要である。
- ② 今回のテーマから得られたキーワードなどの項目は、今後の討議テーマの検討材料として参考にして貰えるようにまとめました。特に多かったキーワードは次の通り。
 - 合併後10年経つが町としての一体感がない事の指摘
 - 4地区の交通手段であるバスの運行について、8グループ中2, 4, 6, 7, 8の5グループで取り上げられている。(表現は様々であるため「キーワード集」を参照願います)
 - 公共施設と道路の整備、街灯の設置状況などについては、4地区間の整備状況など今回の結果から明確には把握出来なかった。今後のテーマとして避けて通れない事項と考える。取り上げ方と討議参加者選定には行政側との協力が欠かせない。
- ③ 今回の発表資料の、まとめを見ると第2ステップでの同じような意見をまとめる作業部分でまとめが十分に行われていない傾向がみられた。これは、討議テーマの選択に時間を要し満足な討議が行われなかった結果と思われる。(今後の改善事項である)

4. アンケート結果のまとめ

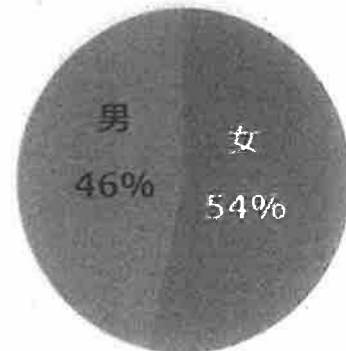
参加回数別分布 (%) 母数71人



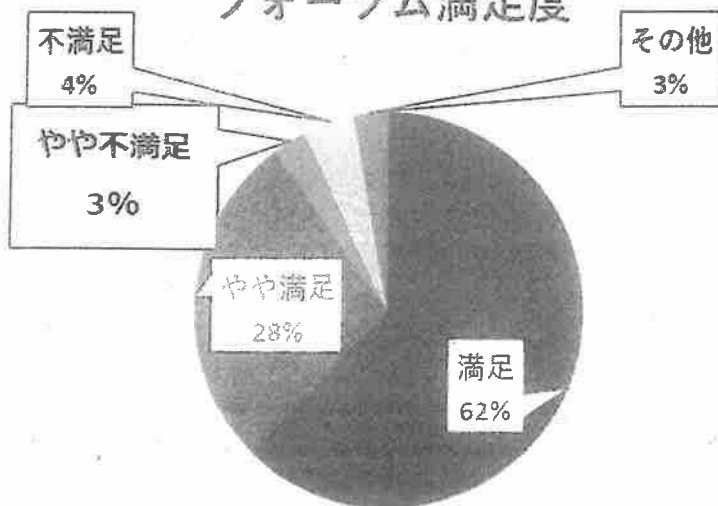
初めての参加者が 75%である

特に 3 回以上の参加者は、生涯学習推進部からの参加と世話役と特定。

参加者人数(母数71人)

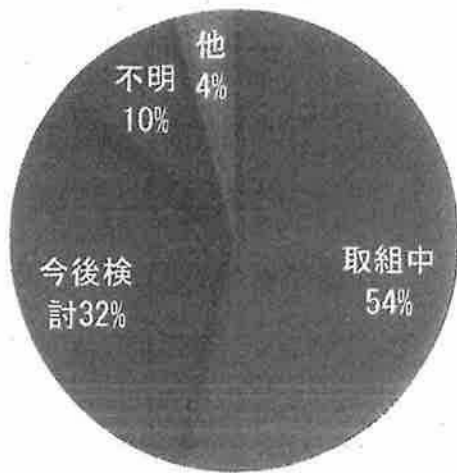


フォーラム満足度



満足とやや満足で 90%である

生涯学習意欲 (%)

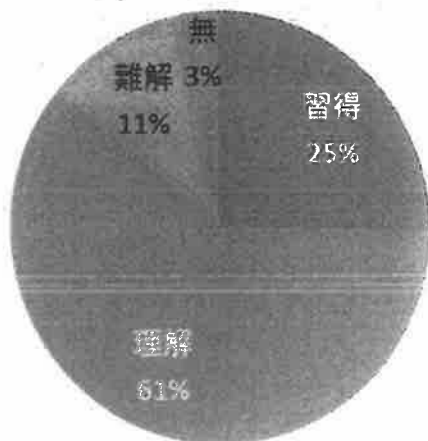


生涯学習に取り組んでいる方が54%である

全ての年齢層で、80%以上の方が、生涯学習に意欲を持たれています。

今回の人選では、教育関係者と市民大学等、生涯学習活動に積極的な方を選んでいることから、この傾向は当然の結果であると考えます。

フォーラム習得状況



習得と理解した方が86%である

今回は、テーマの説明に合わせてフォーラムの概要説明と各ステップで行う実施事項についての説明を行ったことが理解をしやすいと思われる。

5. 講評と挨拶

生涯学習推進部副委員長 田沼 勝子



皆さん、大変お疲れ様でした。

第11回生涯学習研修大会まなびすとフォーラムは、会場も新たに鷺宮総合支所生涯学習施設で4年ぶりに開催されました。今回も多くの皆さんのご参加をいただき開催することができました。ここに改めて感謝し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、本日のテーマは、「あなたにとって久喜のまちづくりとは」でした。

いかがでしたか。初めてフォーラムに参加された方は戸惑いもあったかと存じます。このフォーラムは、お一人おひとりが久喜のまちづくりについて考え、意見、思いを付箋紙に書き、自由に発言し、また他の方々の意見や考えを聞き、話し合い、テーマに迫っていくという、一人ひとりが主役であり、主体的に活動できるという良さがあります。

ところで、皆さんはどんなまちづくりをお考えでしたか。きっと「久喜に住んでよかった」「住み続けたい」と実感でき、誇れるまち、魅力あるまちであってほしいと願っていることと思います。

それには、久喜の課題が見えているとその課題がきっかけとなり、考えや思いが膨らんでくると考えます。例えば、久喜は少子高齢化が進んでいます。昨年度の出生数は、800人（正確には778人）を切ったそうです。また、65歳以上の高齢者は人口の約3割（正確には31.56パーセント）を占め、県平均より高いそうです。そして、久喜市の人口は減少傾向にあります。少子高齢化と人口減少が課題。それには、高齢者にも子どもにも優しいまちづくりが大切。そのためには、どのような方策と対策が必要か。そこからいろいろな多様な考えが生まれてきます。

私は、各グループの話し合いを見させていただきましたが、参加された方々がそれぞれの立場からのご意見や考え等、活発な話し合いが行われておりました。やはり、高齢化・防災・子育て・自治会活動・PTA活動等の課題が多く話し合われておりました。それぞれ島（類似項）ごとにまとめ、小見出しをつけていました。それが一つの解決策につながっていくものと考えられます。

皆さん初対面同士とは思えないほど活発な意見交換が展開され、思い付かなかった考えに気づいたり、同感したり、納得したりと満足感に満たされていた様子が伺えました。グループ発表では、久喜市を思う皆さんの情熱が伝わってまいりました。高校生が5名発表者として堂々と発表しており、頼もしさを感じました。高校生の皆さん、ありがとうございました。

最後に、今日の学びを持ち帰り、災害でよく使われる「自助・共助・公助」に分けてみてはいかがでしょうか。個人個人が取り組むこと、取り組めること、地域の方々と連携して取り組むこと、行政に働きかけることに分けてみてはいかがでしょうか。そして、これからの生活に出来ることから生かしていただき、久喜に住んでよかった、住み続けたいと誇れるまち、魅力ある久喜のまちづくりをしてまいりましょう。

皆さん、本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

添付資料：グループ討議結果



1) グループ発表資料

	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
第 1	グループ	1 1
第 2	グループ	1 1
第 3	グループ	1 2
第 4	グループ	1 2
第 5	グループ	1 3
第 6	グループ	1 3
第 7	グループ	1 4
第 8	グループ	1 4



2) フォーラム統計資料 1 5

討議は、10～70 歳代の幅広い年代の 11～12 人のグループ構成で行いました。異なる考え、意見を世代間で共有できたでしょうか？

第1グループ発表資料:

(地域、学校、ボランティア、安心安全)

① 地域 学校 ボランティア 安心安全

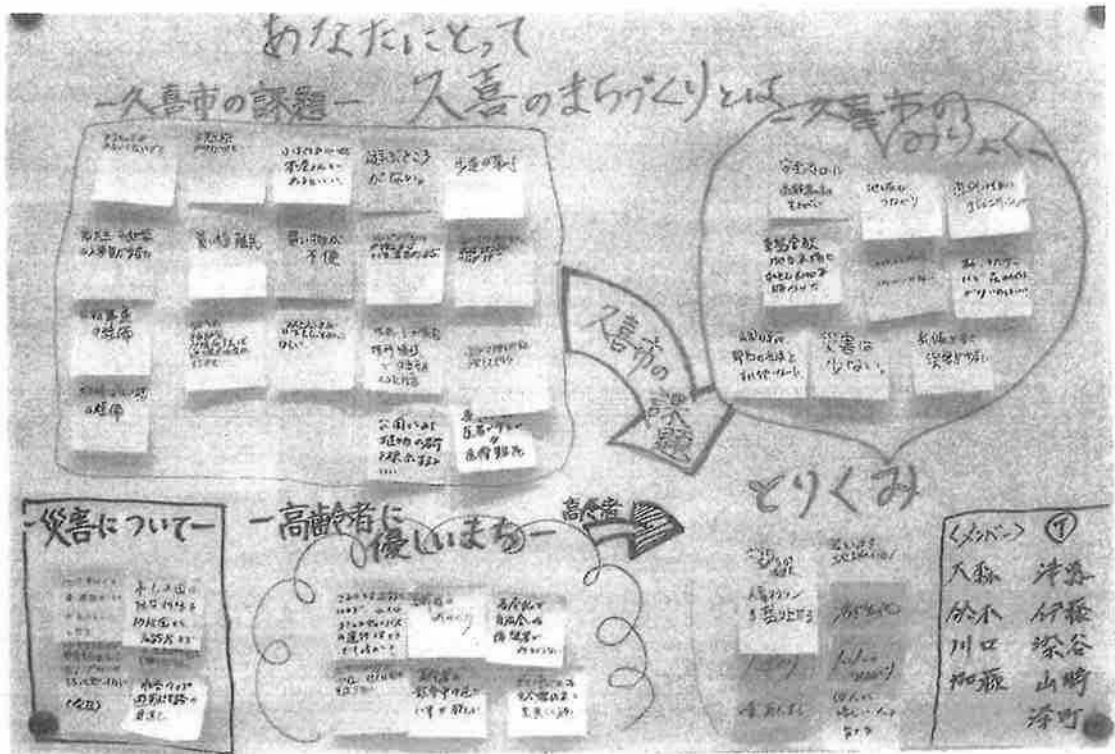
① 「おなげくとしての災害のまちづくりとは」
 町会(組)
 火災 浸水 地震 台風 雪害 水害 津波 原発事故

第2グループ発表資料:

(学校を中心のコミュニティ)

第7グループ発表資料：

(あなたにとって久喜のまちづくりとは)



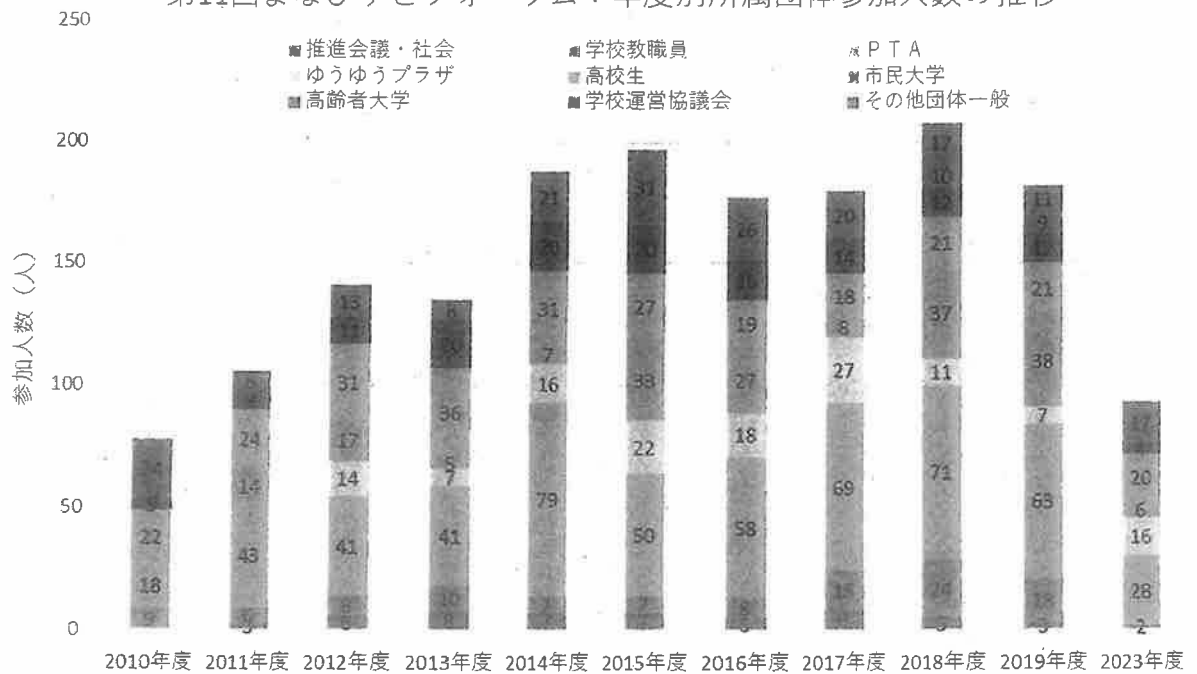
第8グループ発表資料：

(久喜市の魅力を再発見)

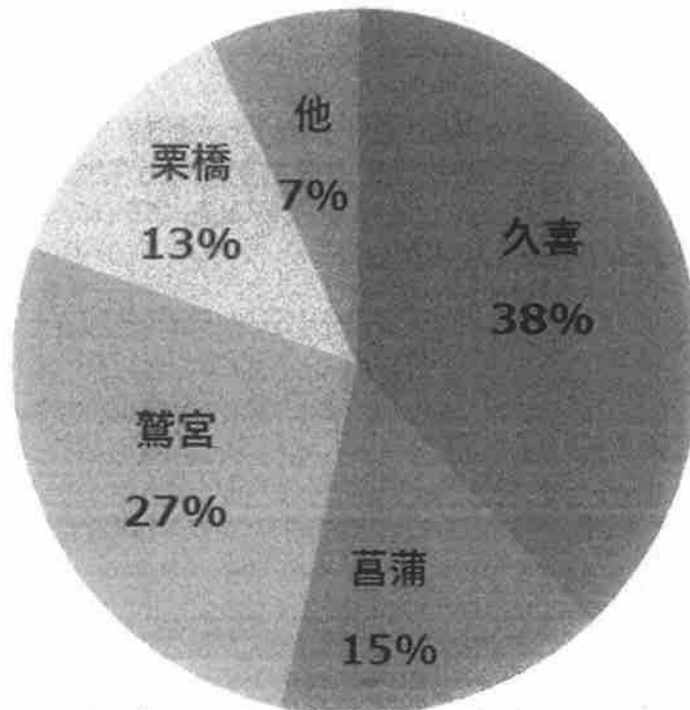


2) フォーラム統計資料

第11回まなびすとフォーラム：年度別所属団体参加人数の推移



地区別参加人数 (母数71人)





編集後記

第11回「まなびすとフォーラム」にご参加いただき、また、ワークショップにおいて、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

今回「まなびすとフォーラム」は、会場としては初となる久喜市生涯学習施設「まなびすと教室」（鷲宮総合支所5階）で開催されました。実に3年ぶりの「まなびすとフォーラム」の開催ということもあり、久喜市生涯学習推進部の「本来の目的」「あるべき姿は何か？」を問うゼロからのスタートでした。

実施内容、方法などすべてを検討し変更しました。変更に対し、良いという人、悪いという人、様々でした。久喜市生涯学習推進部のあるべき姿である「久喜市の生涯学習を推進する」ために、「何ができるか」「何を基本とするか」「運営組織の在り方をどうするか」を考え、努力してきました。

生涯学習推進部委員、久喜市生涯学習課の方々のご協力により、第11回の報告書が完成致しました。今後、次世代に引き継ぐためには、蓄積してきた資料、ノウハウをいかに生かすかが重要になります。推進部委員が課題解決に向け、これらを活用していくことを期待しています。

本報告書は、皆様に討議結果をそのままお届けし、将来に向けて考えていただく材料を、正しくご提供することが大切だと考えて作成いたしました。

最後になりますが、当日ご参加くださった皆さまに改めてお礼を申し上げます。

第11回まなびすとフォーラム（企画運営部会：明石寛正）